

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30
TEL 088-821-2052
FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1137 2014年12月号

第10回滑床山植生回復検討会を開催

10月21日、滑床山頂（通称三本杭）において、第10回滑床山植生回復検討会を開催しました。 【詳細は2頁】



ミヤコザサが順調に拡がり繁茂し植生回復が進んでいる 【平成26年10月滑床山山頂（三本杭）】



平成19年4月の滑床山山頂（三本杭）

滑床山の順調な植生回復を確認

〈ふれあい推進センター〉



ンティア等の協力も頂きながら植生回復に取り組んでいます。

好天に恵まれた一〇月 二六名が参加し、第一〇回

二一日、滑床山頂（通称三本杭）において、関係機関及びボランティア団体等 催しました。

及びボランティア団体等

この滑床山頂周辺は、愛媛県宇和島市、松野町、高知県四万十市

にまたがり、かつてはミヤコザサやオンツツジが群生していましたが、平成一二年頃からニホンジカの食害により裸地化したことから、平成一八年六月に当検討会を立ち上げ、ボラ

ンティア等の協力も頂きながら植生回復に取り組んでいます。今回で一〇回目の節目となる検討会では、平成一九年三月にシカ防護ネットを設置して移植した「たるみ」及び「滑床山頂」のミヤコザサが順調に拡がり繁茂していることや、現地の枯れ木などを活用した簡易な土留め措置の効果が現れ、

媛県宇和島市、松野町、高知県四万十市

リョウブやウリハダカエデなどの稚樹が順調に生育している状況などを確認しました。

にまたがり、かつてはミヤコザサやオンツツジが群生していましたが、平成一二年頃からニホンジカの食害により裸地化したことから、平成一八年六月に当検討

当センターからは、「藤ヶ生越」周辺等のギャップ（ニホンジカ植生被害地）に、シカ防護ネットを追加設置すること、「山頂」や「た

るみ」及び「藤ヶ生越」の

ネット内は、植生が順調に回復しており、「これまで色々な提言を頂いた結果、植生回復事業として

一定の成果が上がったことから、当検討会は今回で終了すること」を提案し了承されました。

シカは相当数の捕獲実績がありながら、増えているの

「滑床山頂付近」の回復状況



また、滑床山頂周辺でニホンジカによる剥皮被害などを調査している森林総研から、ネット柵外では継続的に食害が発生しており、ニホンジカの生息密度は依然として高く、天然林内の自然植生に大きな影響を及ぼしていることなどが報告されました。

出席者からは、シカ肉を食べて地元の資源を有効活用することが重要、ネット設置後のメンテナンスは、大変な作業であり、ボランティアによる協力も必要、シカは相当数の捕獲実績がありながら、増えているの

「たるみ」で植生の回復を確認



が現状であり、色々な方法による個体数調整が必要等、引き続き関係者が連携してシカ対策に取り組む必要性などについての意見が出されました。

当センターとしては、新たなギャップの発生に対応して、今後もネットを追加

設置する考えです。そのため、設置延長距離が益々増加し、ネット設置後のメンテナンスが大変な作業になることから、シカ防護ネットの保守点検等において、関係者やボランティア等の協力も得ながら植生回復に取り組み考えです。



国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催

〈企画調整課〉

一月六日、四国森林管理局において「四国国有林野等所在市町村長連絡協議会」を開催しました。

本協議会は、地域社会と国有林野事業の連携強化を

図り、地域産業の振興、住民福祉の向上に寄与することを目的に開催しているものです。会議には管内七署

(所)の有志協議会の代表世話人である市町村長、浅

川局長をはじめとする局幹部、林野庁から黒川国有林野部長、今泉山村振興・緑化推進室長が出席し、協議

の議事進行により、今年度のテーマである「林業の成長産業化の実現(地域の所得と雇用を生む林業の創

造)」について、意見交換を行いました。

代表世話人からは、次のような意見・提言等がありました。

「地域の産業として林業をしつかりと立て直していくには伐期を迎えている木は伐るということで、皆伐、主伐をやりやすくするよう

な考え方を国有林の経営の中にひとつ取り入れてほし

い。」

「人工林が伐期を迎えつつある中、林業従事者の減少や高齢化が進んでいる。今後、主伐後の再造林・保育作業を進めていく上で、必要な労働力を確保するこ

とが困難となり、資源はあれど伐採できないという状況になってしまふことを懸念している。」

「薪ストーブは、軽量で扱いやすく、安価であれば普及すると思っている。国産でそういうかたちでの開

発ができれば、国・県・市町村でも購入に関しての一定の補助金・交付金の検討ができると思う。」

このような意見・提言等について、熱心な意見交換

が行われました。四国森林管理局としても、これらを踏まえ、より一層公益重視、民国連携を推進し、「国民の森林」として相応しい国有林の管理経営に取り組んでいきます。



連絡協議会の様子

保護林観察ツアーを開催

「可愛らしいヤッコソウ」に感動

〈技術普及課〉



一月八日、一般公募に

よる二九名の参加者とともに

高知県土佐清水市の佐田

山保護林観察ツアーを行いました。

ました。



可愛らしいヤッコソウ

今回は、林木遺産資源保

存林として保護管理を行っ

ている佐田山を歩きなが

ら、自然の営みを紹介しま

した。また、平成二八年か

ら八月一日が「山の日」

として国民の祝日に加わる

ということを記念して、四

国仰山会との共催により、

国民の皆さまが、森林に親

しみ、自然と触れ合うこと

で、森林に対する理解を深

めていただけるように開催

したものです。

参加者は、樹齢一四〇年

を超える巨木のシイやアカ

ガシに時の流れを感じとつ

ていました。また、なによ

り、シイの根に寄生する

「ヤッコソウ」を初めて見

る人が多く、あちらこちら

でまるで出迎えてくれてい

るかのように顔を出してい

る小さな「やっこさん」を

見つけては「本当に人の形

に見えてかわいい」「思っ

たよりきれいな色」などの

歓声が上がリ、その愛らし

い姿に感嘆していました。

登山コースの高低差もあ

まりなく、山頂からは、太

平洋の広く青い雄大な水平

線を眺めることができました。

た。

登山中には、平安時代初

期に白皇山真言修験寺とし

て創建された白皇寺跡の見

学や昔を偲ぶ炭窯を復元し

ている地元の方から当時の

暮らしの話を聞いたり、山

頂付近にある石鎚神社に参

拝に来られていた方にホラ

貝を吹いていただいたり

と、主催者も予定していな

かったサプライズがあり、

参加された方

に、古の雰囲気

も味わっていた

だくことが出来

ました。

また、巨木だ

けでなく、林内

に点在する巨石

からもパワーを

もらいながら、

ゆっくり散策を

楽しんでもらえ



保護林ツアー参加者の皆様

森林鉄道遺産の見学(軌道敷)



森林ふれあい推進事業

千本山と森林鉄道遺産を訪ねて

技術普及課



一月二日、高知県馬路村において、「山の制定記念 魚梁瀬千本山と森林鉄道遺産を訪ねるツアー」を公募による二一名

の参加を得て、開催しました。当日は、「馬路村公認むらの案内人クラブ」の清岡さんに案内していただきました。

参加者は、バスの中で「中

芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会」が作成したビデオを見て、事前に森林鉄道の歴史について学びながら、最初の目的地に向かいました。

安田川沿いの森林鉄道遺

産の明神口橋とオオムカエ隧道では、バスから降りて

先達の施工技術などについてむらの案内人清岡さんより詳しい説明を受け、建設に携わった人々の苦労や森林鉄道が走っていた時代の村の繁栄が偲ばれました。

その後、五味隧道と魚梁瀬ダム展望台でも説明を聞きながら見学しました。

それぞれの目的地に向かう車中でも、案内人からユーモアを交えて、馬路村

の今昔や、森林・林業の歴史など、大変貴重なお話を聞いていただき、丁度見頃を迎えた紅葉も相まって、笑い絶えず、退屈する間もなく移動ができました。

魚梁瀬の丸山公園では、

復元された森林鉄道に体験乗車し、童心に帰るととも

ヤナセスギ (千本山林木遺伝資源保存林)



れた「千本山橋の大杉」に迎えられ、標高九〇〇mの展望台を目指しました。天候にも恵まれ、展望台まで無事登ることができました。樹齢二〇〇年〜三〇〇年のヤナセスギ美林とのふれあいパワーをもらって皆さんには、満足していただけでした。

に、その乗り心地からも、当時の様子を感じとることが出来ました。その後、馬路村ならではのユズやアメガといった山の幸満載の弁当でお腹を満たし、最後の目的地である千本山ヤナセスギ林木遺伝資源保存林へ向かいました。

参加者からは、「見事なスギに感激した。」「ここに来ると空気・水・自然、そういういったものの原点を感じる。守っていく事が大切だ。」などの感想をいただき、有意義で楽しい一日となりました。

千本山では、登山口にある森の巨人たち百選に選ば



ジージーゼミ作製中、うまく作れるかな？

木工教室はあまり経験がなく、不安もありましたが、先生方の協力も得て、無事、皆さんに満足していただけたのではないかと考えています。今回は、木で作ったおもちゃ

ら、年長児は、自分で「ジージーゼミ」や「ケロケロカエル」を作り、年中・年少児には、まだ、ハサミを使うことが難しいため、事前に準備した完成品をプレゼントしました。わずか、二時間程度でしたが、約一三〇名の園児がひっきりなしにビンゴゲームに挑戦してくれました。中には、ビンゴゲームが理

解できず立ちすくむ子、三つの列の穴にすんなり入れてしまう子（無欲の成せる業でしょうか？）、「面白かった。」と言って何度も挑戦する子と、かわいい笑顔に、慌ただしい気持ちもすっかり癒やされました。

ます。そして、短い時間で、一人でも多くの子ども達が今日の思い出を残して人になっても大切にしてください。

十一月一日、高知市にある私立清和幼稚園からの依頼を受け、親子で行う木工教室を開催しました。



で遊び、「木の温もり」を感じてもらうことを念頭に、ビンゴゲーム・パズル・コマ・けん玉など七種類二〇台を用意して親子でそれぞれ楽しんでもらいました。



パズル遊び、うまく出来るかな？

たくさんのおもちゃによって、親子で木の温もりや良さを感じてもらったり、と同時に、楽しい時間を過ごしていただけたらと思います。